慰めの応酬

遠野ましろ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
慰めの応酬

【Ｎコード】
Ｎ０３５０Ｔ

【作者名】
遠野ましろ

【あらすじ】
慰め合うのは誰のことでしょう。

お、気分はどうだ。

この指が一本に見えるか。ああ、上出来だ。

五本で違いねえ。

とりあえず、飲め。水だ。真水。

ああいい、名乗るとかまじめんどくせ。

通りがかっただけだ。

うにゃ、正確には、おれは。

叫んでも誰にも届かない滝の裏に住んでいる。

いや、ホントよ？

六時には就寝すんだから。電気通じてないし。

買い物？　Ａｍａｚｏｎ。ネカフェ行くし。

携帯、どころか電話もないし。

“持ってるものを失う観点”からすれば不便だけど、“最初から持ってなければ”別段支障はないよ。

文明の機器がプラスアルファ、いろどる趣味みてえなもん。

おれの話はさておいて、おまえ。

男に振られでもしたか？

おっと。藪蛇だったか。

ああ、うん。それでそれで。うお？　なーんだそれだけかよちくしょ。

「それだけ」

うん、それだけの話だろ。

死にたい。はああ、そうかい。

心が壊死してなんにも手につかない。のわりにようしゃべんなぁにいちゃんよう。

挙句に死に損なってこれ以上の無様はない、確かにな。

けどま。

滝つぼから生還した人間としておまえ、伝説になんぜ。

学校で自慢しとけ。

なんだ。行きたくない。顔会わすから。なるほどな、そりゃあ気まずい。

ま。好きなだけ落ち込むこった。

落ち込むだけ落ち込んだら自然と浮上したくなるもんだ。

結局水中でもがいちまったおまえみたいな人間は、な。

本気で死ぬつもりだった。

そうか。ちょうどいい。

ここに、一本の、ナイフがある。

頸動脈だな。手首や入水みてえに半端な真似が一番良くねえんだ。飛び込みは甚大な迷惑がかかんだ。ここ切るのは自分じゃ力入んねえし、絶対にためらう。手ぇ借りるのがベスト。

その白い服、真っ赤に染めてやんぜ。

うぅーいしょ、と。

……冗談だよ。腰抜かすこたぁねえだろ。

は。おまえが死のうが生きようがおれにはどうでもいい。

この辺りで寝覚めが悪い真似はしてくれんなよ。

そうだな、身も蓋もない。

けどま、頼まれればおまえは死ねんのか。

言いたいように言いたがるのが人間の性分だ。

所詮な、いっときの関わりであって、都度悩んでいたら身がいくつあっても足らねえ。

排他的同和。違いを封じるのが社会であり、オブラートに隠蔽すんのが、例えば、フェチって単語。

違和同士をどうにかして同じ色に染め上げたい、でも違う、だから言い合い褒め合い慣れ合い確かめ合う。

わたしたち、同じで違うようね、と。

せんのない話だ。

見せかけの慰め。そんなものに崩されない、自己を作るこった。せいぜい。

放棄して接触を拒む生き方を選ばない限りは、な。

勧めはしないぜ。

お。行くのか。いい、礼は言うな、めんどくせ。

二度とツラ出すんじゃねえぞ。

なあ坊主。

似合ってんぞ。女装癖、大いに結構。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n0350t/

慰めの応酬

2011年5月9日11時55分発行